

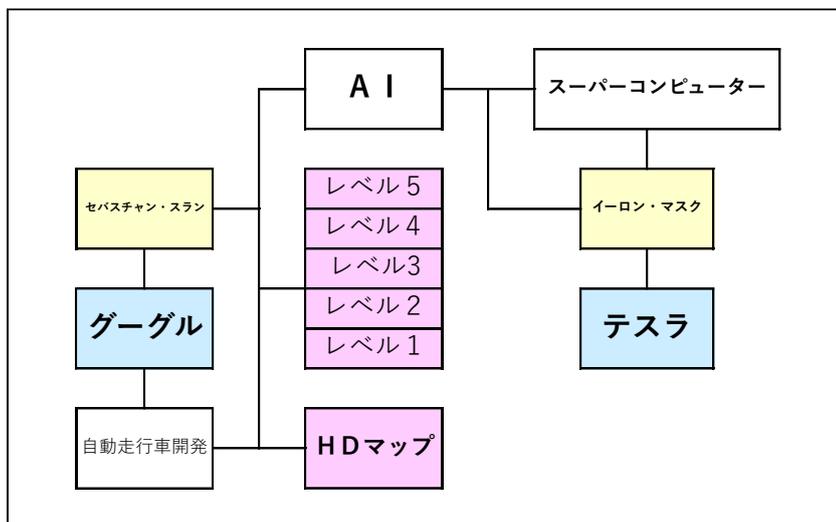


変化のスピードは X^2

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

私の子ども時代の技術革新のスピードは「 2×2 、 2×3 、 2×4 」というかけ算で、「後何年したらこんなことができるようになるだろうな……。」という見通しが、子どもなりにもてていました。しかし、現在のスピードは「 2^2 、 2^3 、 2^4 」という自乗で進んでいる気がします。ある意味、予測不可能な進展がある社会です。

金曜日の午後11時15分から11時30分、NHKの「漫画家イエナガの複雑社会を超定義」という番組があります。5月20日は自動車の完全自動運転についてでした。



セバスチャン・スランが友人の自動車事故を契機に、車自体が事故の未然防止をするという発想から開発を始め、グーグルの傘下となり自動走行車の開発が飛躍的に進んだとの解説がありました。そして開発は5段階に分かれているそうです。

レベル4：特定の場所で完全自動運転

レベル5：どこでも完全自動運転

オートX社は、2021年にレベル4搭載車による無料の無人自動運転タクシーサービスを開始しているということ

とも紹介されていました。その中で、自動運転には、車線やガードレールなどの道路情報を記録した高精度3次元地図データのHDマップの作成が不可欠であり、日本でも高速道路等の作成が終わりに近づいているとのことでした。一方、HDマップを使わずに完全自動運転を目指しているのが、イーロン・マスク率いる電気自動車のテスラで、AIの機械学習を活用しているとのことでした。

小学生の頃、21世紀には自動運転車が大都市を走っているという漫画を見ましたが、大学生の頃にも絶対に無理だろうと思っていました。ところが、この数十年で技術が飛躍的に進みゴールが見えてきました。私の所属する研究会の全大会でも、バーチャル会議室にVRゴーグルを使ってアバターで参加することも始まりました。さらに加速する社会の中で活躍する子どもたちに、今小学校で身に付けておくべき資質・能力をしっかりと育成していきます。

デジタルシチズンシップ

3年生以上に1人1台のタブレット端末を導入して9ヶ月が経とうとしています。帝京大学小学校では、使用の仕方をルールで禁止するのではなく、課題が解決できない場合にルールをつくるというデジタルシチズンシップの考え方で進めてきました。併せて子どもたちへの情報モラル教育を専門の企業に依頼し、3年生には配布に合わせて4月に、その他の学年には6月の授業公開時に実施します。昨年度の実態調査を踏まえて、企業と学校が授業内容の調整を行っています。

日常の授業でも、タブレットの機能やデジタル教科書を使う子、紙媒体を使う子、その時に適したものを選択する子など、「道具」として利活用する子どもたちも増えてきています。目や姿勢などの健康に留意しながら、授業のどのような場面で使うのが有効なのか、学校全体で研究を進めていきます。